

# ガルフ戦後の中東再編 中東レポート

一九九一年三月一日

## 地上戦—イテク敗北の根拠

「一月四日から本格的に始まった地上戦は、  
「一〇〇時間で決着をつけた」とブッシュが宣  
言するように、短期に終わつたばかりか、イラ  
クの敗走に終わった。

イラクは、何としても長期戦に持ちこみ、政治的に勝利することにおいてしか、勝利の見通しはなかった。しかも、イラクは自ら敗北の道を選択した結果となつた。

二月一五日、イラク革命評議会の停戦提案案が明を受けたソ連、イランの停戦調停の動きから、停戦の可能性が一時高まつたが、停戦提案に対する米帝の冷淡、かつ高压的な対応から全面戦争の危険性が高まつた。そして、一七日から地上戦が散発的に始まつていった。

米帝は、米帝のつきつけた停戦条件を飲まなかつたイラクに対する最後通牒切れ八時間後の二四日から全面的な地上戦に突入した。そして、

は終了したのである。

停戦後の焦点は、サッダム政権打倒をめざす勢力の台頭によるイラクの内乱状況と、戦後の安全保障一再建になつてている。停戦を待つていたかのような戦後の安全保障の枠組が、三月六日にブッシュから出されるのに連動する形で、ダマスカス宣言というGCC－エジプト・シリアの安全保障の枠組も発表された。

今号では、戦後の中東再編について検討していきたい。

イラクが敗走した原因は、以下の点にある。第一には、サッダム政権が地上戦の前に停戦に持ちこもうとして、イラン、ソ連の仲介に期待したこと。イラクの停戦意志の発表があつた時、バグダッドなどでは、イラク市民の間では歓迎の意志が表明されたが、この停戦提案がイラク軍の士気を一挙に瓦解させていくものとなつた。サッダム政権は、政権として延命しようとしたが、米帝の狙いが政権そのものの打倒である

# 利東レポート

第 66 号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL. (03) 291-5533  
編集 J.R.A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員登録 年会費24000円

編集後記

三月一〇

16 15

目次

- ・ダマスカス宣言（抜粋）
  - ・蜂起統一指導部アピール第一原稿（全文訳）

件を与えないことににおいて、戦後のアラブ世界へのイラクの影響力をも断ち切つたのである。第二には、シリアを反イラク勢力に組み入れることによって、シリアへの影響力を強め、そして、間接的にイランを押さえることにも成功した。

第三は、不安定化するサウジなど湾岸諸国に「民主化」を要求することによって、これらの諸国がイスラム原理主義によって転覆される危険を押さえることをめざした。

第四には、これらを通して、アラブ－イスラエルの「和平」を米帝の下実現させ、イスラエル、アラブを統合支配することを狙っていた。この統合支配の下で、パレスチナ革命勢力を始めとする反帝国主義勢力を、一举に潰すことが可能となるからである。

このグランド・デザインにそって、ガルフ戦争を通して米帝は中東の再編を貫徹した。

①シリアに対しても

シリアは、ソ連の変化によって、これまで打ち建ててきた対イスラエル戦略均衡建設路線が成立しない事態に直面している。米帝は、この新たな事態に対して、また、これまでの政治的孤立化と、経済的な困難から、シリアが帝国主義との関係改善、さらには、イスラエルとの戦争ではなく平和共存を求めていると判断した。そこで、米帝は、レバノン問題での共同を手始めに、シリアとの関係の改善を進めてきた。これは、同時に、イランをも押さえることであった。米帝の狙いは、シリアを親米諸国であ

るエジプト、そしてサウジなどの湾岸諸国と連合させることによって、米帝の支配下にアラブの安全保障の枠組を形成させ、同時に、この枠組をもつてイスラエルとの平和共存を計らせることがあつた。

米帝の側は、このために、対イラク戦争で力を示すことと同時に、イスラエルを説得してゴラン高原などのアラブの土地を返還させ、アラブ側をこの道へ進めようとしているのである。

こうした米帝の展開に対して、シリアの側は、イランとの関係を利用して、米帝の枠組における独自性を維持することをめざしている。その一つが、米帝以外の帝国主義との協力関係を作り出すことである。また、軍事力の面でも、独自性を維持しようとして、ソ連に武器供給を要請したが、拒否されている。もちろん、他の西側帝国主義は、シリアへ供給しないだろう。

米帝は、シリアを巻き込んでいくことによって、シリアを変化させることを基本にしている。米帝に直接対峙しない限りにおいて、米帝の支配下での中東の枠組内にシリアの位置を承認することが、米帝のシリア政策の基本である。そして、シリアに対する現在の踏み絵として、「テロリズム」支援の中止と、レバノン人質問題解決を持ち出している。

こうしたシリアの態度と直接結びついて動いているのが、レバノンにおける再編である。基本的ににはタイフ合意の方向で再編が進行している。これは、実体的にシリアと米帝の協同によつて進められているのである。

また、ガulf戦争の最中の二月六日に、レバノン南部へのレバノン軍配備がなされた。このレバノン軍配備によって、南部レバノンからのイスラエル攻撃を封じこめていくのが、方向として示されている。レバノン政府は、南部から装解除が進められており、パレスチナ革命勢力の軍事力量も、この政策によって決定的な影響を受けることになる。これは、パレスチナ革命勢力の軍事的能力を奪いさるものになっている。

②イスラエルに対する

米帝は、イスラエルに対して、イラクへの反撃を押さえさせた。これは、単に連合軍内アラブ諸国の矛盾を阻止するだけではなく、ガルフ戦争後のアラブーイスラエル共存体制を米帝の下で作り出すべく、米帝の力をイスラエルに示すものと/orしてあった。

イラクへの反撃抑止は、同時に、シャミールへのテストでもあった。シャミールが、極右シオニスト政権であることによって、アラブへの不信とイラクへの反撃要求を強める右翼シオニズムの側の要求を押さええることができるかどうかのリトマス試験紙となつた。戦後の枠組におけるイスラエル内の右翼シオニストを押さえて、アラブ側に対する領土的妥協ができるか否かの力を示すことになつていて。シャミールは、このテストにパスしているし、アラブが米帝を介して、シャミール率いるイスラエルとの共存体

また、ガulf戦争の最中の二月六日に、レバノン南部へのレバノン軍配備がなされた。このレバノン軍配備によって、南部レバノンからのイスラエル攻撃を封じこめていくのが、方向として示されている。レバノン政府は、南部から装解除が進められており、パレスチナ革命勢力の軍事力量も、この政策によって決定的な影響を受けることになる。これは、パレスチナ革命勢力の軍事的能力を奪いさるものになっている。

②イスラエルに対する

米帝は、イスラエルに対して、イラクへの反撃を押さえさせた。これは、単に連合軍内アラブ諸国の矛盾を阻止するだけではなく、ガルフ戦争後のアラブーイスラエル共存体制を米帝の下で作り出すべく、米帝の力をイスラエルに示すものと/orしてあった。

イラクへの反撃抑止は、同時に、シャミールへのテストでもあった。シャミールが、極右シオニスト政権であることによって、アラブへの不信とイラクへの反撃要求を強める右翼シオニズムの側の要求を押さええることができるかどうかのリトマス試験紙となつた。戦後の枠組におけるイスラエル内の右翼シオニストを押さえて、アラブ側に対する領土的妥協ができるか否かの力を示すことになつていて。シャミールは、このテストにパスしているし、アラブが米帝を介して、シャミール率いるイスラエルとの共存体

ことを悟って、延命のための最後の手として停戦を持ちこもうとした。

第二には、この停戦提案は、サッダム政権の意図が延命にあること、連合軍の爆撃で受けたダメージが大きいということを示した。これままで、連合軍が地上戦に躊躇を示してきたのはイラクが実際のダメージを受けているのかどうかが判明していないからであった。

たこと。ソ連の調停は「ソ連に一蹴され、イラクーソ連の話し合いは、何らの意味も持たなかつた。現在のソ連には、米帝を抑止するだけの力がないのだが、イラクはソ連に期待した。そして、それに応えようとしたソ連は、停戦交渉に介入して、逆に力のなさを示すことにしかならなかつたのである。

単行年縦の本縦

二 戦後再編の枠組—米帝の一元支配の下でのアラブーイスラエル共存体制

六日のブッシュ演説で、米帝は中東再編の展望を指示した。それは、第一に中東に安全保障の枠組を作り出すこと、第二に、パレスチナ問題を国連決議二四一、三三八を土台に「ランド・フォード・ピース」の原則で解決すること、第三に経済再建、第四に軍備管理である。

かが判明していないからであった。

だが、イラク側からの停戦提案は、イラクがダメージを受けているとの確証を連合軍に与えた。さらに、イラク軍の士気の低下が起ころり地上攻撃段階に達したと米帝に判断させた。停戦提案は、イラク側を有利にしていた条件を自ら崩してしまうことになったのである。

第三には、この停戦提案は、アラブ連合軍内にも、特にイラクが期待したのはシリアの切り崩しだが、何らの流動を起こすものともなりえなかつた。サッダム政権は、これまで、サウジ・エジプトへの聖戦の呼びかけは行つても、一言もシリアを非難してこなかつたのだが、そのシリアは停戦の動きにも動じなかつた。シリアは戦後の再編過程に参加していくことを見据えてすでに、開戦後四日目の二月二〇日には、イスラエルの自衛範囲を越える対イラク、対ヨルダーン攻撃があつた場合には、対イスラエル戦に参戦するとの立場を打ち出していた。この立場表明は、シリアの置かれた条件から判断してもイスラエルとの戦争には参加しないということを意味した。

ならなかつたのである。

米帝の意図は、サッダム政権の打倒か、少なくとも軍事力の去勢にあり、その目的が達成されない停戦に合意するはずがなかつた。米帝の側が地上戦突入を延ばしていたのは、サッダム政権の反撃能力を瓦解させたのかどうかが確認できなかつたからでしかなかつた。米帝は、ベトナム侵略戦争の教訓をいかして、あくまでも、人的被害を最小限に押さえることを第一にはしても、サッダム政権の打倒までは中途半端な妥協に応じるはずがなかつた。サッダム政権はソ連の影響力の低下についても、判断を誤つていった。さらに、軍事的には、敗北しようとも降伏しないという立場があつて初めて成立した戦争を始めたのであるが、そこににおいても、判断を誤つたのである。物量的には、最初から太刀打ちできない米帝に挑戦した以上、断固として降伏しない戦闘をやり切ることで、米帝に政治的打撃を与えることが問われていた。

ソ連の無力と、米帝の強硬な態度と威嚇は、単に敗戦国イラクに対してもならず、アラブ合同軍の目にも示されることになつた。これは、戦後の中東再編における米帝とソ連の位置を明確に決定するものになつた。

六日のブッシュ演説で、米帝は中東再編の展望を指示した。それは、第一に中東に安全保障の枠組を作り出すこと、第二に、パレスチナ問題を国連決議二四一、三三八を土台に「ランド・フォー・ピース」の原則で解決すること、第三に経済再建、第四に軍備管理である。

(一) 安全保障の枠組－米帝の支配体制  
すでに前号でも提起したが、米帝は、冷戦構造の解体によって、中東での米帝の一元的支配を確立する好機ととらえていた。ソ連の後ろ盾を失い、政治、軍事、経済的に弱体化したアラブの反帝国主義諸国を解体し、米帝の一元的支配を確立することを狙っていたのである。その中での障害を、第一にアラブでの軍拡を進めているイラク、さらにシリア、リビア、そしてイランを、米帝の利益に反する存在としてとらえ、第一に、アラブ反動内でのイスラム原理主義による不安定要素と見ていた。

今回のガルフ戦争は、これらの問題を一挙に解決する条件を米帝に与えた。米帝は、このガルフ戦争を遂行することによって、第一にイラクを軍事的に粉碎し、帝国主義に対抗する力を一挙に去勢し、また、イラクに政治的勝利の条

制に進む体制が作られている。

シオニストの側は、対イラク反撃を控えることによって、政治・経済・軍事的に大きな利益を得ることになっている。シャミール政権は、強硬な発言を繰り返しているが、そこには、二つの意味が込められていることは明らかである。一つは、交渉におけるバーゲン・チップを作り上げることであり、二つには、それによって、イスラエル内の右翼シオニズムの強硬派をシャミール政権の下に押さえることである。

それは、水面下での交渉が進展していることを示しているのである。

### (3) イラク支持国に対する

米帝は、イラク支持国に対して、非妥協な姿勢を示すことによって、ガルフ戦後の枠組における位置を失わせている。第一には、PLOに対しても、政治的失格者と宣言し、戦後の和平の枠組から縮め出すか、少なくとも現在のPLO指導部をも含めた変化を要求することになる。また、これまでPLOを財政的に支援してきた湾岸諸国、特にサウジ、クウェートなどが、PLOへの支援を止め、また、PLOとの対立関係にあったシリアが政治的位置を高めることによって、PLOの登場の余地を失わせた。

第二には、イラク支援の立場を表明し続けたヨルダンに対しては、米帝は、援助の再検討なる脅しをかけ、締め付けている。ヨルダンの政策を転換させようとの狙いが明確である。ヨルダンのフェイイン国王は、もともと親米派である。

問題は、イスラエルがどのような妥協を示すかにかかっている。米帝は、これまで、イスラエルが言うところの安全保障上の理由において、イスラエルのアラブに対する態度を支持してきた。しかし、現在のアラブの転換の中で、アラブ側へ配慮しつつ、イスラエルとの共存体制へ持つていてこうとしている。

この方向での矛盾は、第一に、アラブ側、そして米が国連決議に基づいての解決を主張するのに対してイスラエルは無条件の話し合いを要求していること。第二は、アラブ側は国際和平会議を主張し、イスラエルは個別交渉を対置し、米帝はその中間的な立場をとっていることである。

しかし、実質的な意味では、米帝を介したシリアイスラエルの交渉は進行していると見られているし、ゴラン高原の非武装返還が、可能性として浮かび上がっている。

また、西岸・ガザに対しても、PLOの政治的な位置の低下は、パレスチナ建国を遠ざけ、キャンプ・デービッド式の「自治」にしかなり

にもかかわらず、国内のイスラム原理主義潮流

の台頭の中で、政権維持のために、親イラクの立場を表明してきただけである。米帝の下でのアラブ体制が作り上げられれば、その力をもつて、国内の原理主義潮流やパレスチナ勢力を力一掃しても、枠組の中に入るであろうことは明確である。

第三は、イエメンである。イエメンは、現在の国連安理会長国として、キューバとともに、アラブ体制打倒運動を継続しており、

米帝によるイラクへの国連の強硬的立場に反対してきた。このガルフ戦争の中では、何らの立場表明もしないことで、イラク支持の立場を変更している。もともと、イエメンは、経済的にも、政治的にも、軍事的にも力が弱いために、全体の枠組が作られれば、その中に入らざるをえないだろう。

第四には、リビアなどのマグレブ連合諸国である。モロッコは、連合軍に派兵しており、米帝を支援し、アルジェリア、リビア、チュニジアは、中立的立場をとった。米帝は、リビアに対しては、カダフィ政権打倒運動を継続しており、チャド戦争でも、米帝が反カダフィ勢力としてリビア兵の捕虜を訓練、教育して、カダフィ政権の転覆を計ろうとしているのが暴露された。

④ 湾岸諸国に対する

米帝は、これまで、多少とも独自性をもつてヨルダンとの関係を作ってきた湾岸諸国を、今回の戦争によって、政治・軍事・経済的な全面的な戦争によって、政治・軍事・経済的な全面的な対米従属関係に組み入れることによって、安全保障の要にしようとしている。

そして、これらの諸国に対する「民主化」

を要求し、国内における反動王室への不満を解消させ、親米政権としての性格を保持させようとしているのである。

米帝は、たとえ、「民主化」によって王室が解体されても、政権の親米的性格が維持されれば良いと判断している。米帝が最も警戒しているのは、モスルム原理主義勢力の台頭であり、これを押さえることが第一の狙いだからである。

以上のことから明らかなように、米帝は、自らの支配の枠組として中東に安全保障の枠組を作っている。ソ連が影響力を失っている現在、アラブ諸国にとっての中心課題は、米帝の支配の枠のなかに入るか否かではなく、その中でどこまで独自性を維持するのかという問題に移行しているのである。アラブ諸国総体としては、アラブ諸国との関係だけではなく、他の帝国主義を引き入れることでの独自性作り、また、シリアはイランとの関係を利用することによって、米帝への全面的な従属を押し止めようとするだろ

う。

これが、三月六日に発表されたダマスカス宣言（資料参照）の位置である。この宣言は、湾岸諸国の資金と、エジプト、シリアの軍事力をもって中東の安全を計ろうというものであり、米帝の枠のなかでアラブとして自立性を持てるか否かという問題としてある。

第三は、ダマスカス宣言（資料参照）の位置である。この宣言は、湾岸諸国の資金と、エジプト、シリアの軍事力をもって中東の安全を計ろうというものであり、米帝の枠のなかでアラブとして自立性を持てるか否かという問題としてある。

（二）アラブ・イスラエル紛争

現在模索されている安全保障の枠組が、とり

仏の会社が契約したものと解約して、米の会社が契約を結んでいるものもある。

第二に、サウジは、この戦争において、初めて借款團をつくることを要請した。戦争による国家財政の赤字を借入によって賄うことになり、経済的には、帝国主義からの借入金に依存しなければならなくなっている。

第三は、米帝は、サッダム政権への反対と米帝支持を踏み絵にして、「援助」する政策である。また、イラクに対して、サッダム政権ではないことを条件として、「援助」を提案している。

第四は、個別的な援助ではなく、アラブ再建銀行方式をとつて、他の帝国主義にも資金を出させつつ、それを米帝のヘゲモニーの下で配分するやり方をとっている。

しかし、アラブ側は、この米帝による一元的支配を恐れるところから、日、西独への援助を要求している。これが、サウジ、クウェート、エジプトなどが、小沢の来訪を要求した理由であった。

米帝との関係でしか世界を見ることができない帝は、戦争中にゲンシャー外相を派遣したドイツとは違つて、アラブ側から直接要請をうけたにもかかわらず、動かなかつた。アラブ側は、米の意向でしか動かない海部よりも、自民党内での実力を持つ小沢を呼ぶことで、米帝の一元的支配に下るのを緩和しようとしたのである。すなわち、日帝にとっては、戦後再建にのつて、アラブ側に食い込むチャンスであつたにも

### (三) 経済再建

ここに最も米帝の中東支配の要が存在する。

米帝は、第二次大戦後の西欧にマーシャル・プランによる復興援助を行うことによって、米帝の経済的な支配を作り上げてきたが、中東においても、ガルフ戦後の経済再建を米帝が主導することによって、経済的な支配を確立することを狙っている。再建プロジェクトの中には、いったん

においては、米帝の独占資本が他の諸国との独占資本を追い出し、利益を手に入れる構造になつて、アラブ側に食い込むチャンスであつたにも



## ●ダマスカス宣言（抜粋）

一九九一年三月六日発表

全メンバーは、アラブの相互関係に新しい精神を打ちたて、以下の確固とした土台と原則にそつてアラブ家族のメンバー間の兄弟的協力関係を確立していく決意を確認した。

### A. 協力と共同の原則は以下である

(一) アラブ連盟憲章、国連憲章など他のいかなるアラブ、または国際機関の憲章をも重んじ、歴史的、兄弟的繋がりを発展させること、そして、領土的統一と主権を相互尊重し、善隣関係を発展させる。実力による土地の掠奪を禁じ、相互の内部問題への干渉を禁じるとともに、紛争や宿怨を平和的手段で解決する必要性を強調する。

(二) アラブ間の協力を発展させることをめざす新たなアラブの秩序の確立にむけて努力し、この秩序の土台として参加メンバーが了承した措置を検討する。

(三) アラブ民族が、自らの資源と能力を、中東の安全と安定を危うくするであろう挑戦に対する必要性を強調する。

(一) 政治・安全保障の分野で  
a. 中東が直面させられてきた継続的脅威と挑戦、その頂点がイスラエルによるアラブの土地の占領とそこへのユダヤ人移民の入植であったが、イラク政権からのクウェート解放に続く段階は、その脅威と挑戦に立ち向かっていく最良の条件を備えていると、参加メンバーは信じる。

b. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章と、アラブ連盟加盟国間の相互防衛条約、経済協力に対する完全な責任を果たすこと、そして、全アラブ諸国の安全と安全保障を確保するために協力関係を発展させる決意を強調する。アラブ連盟憲章第九条にのっとり、サウジ王国や他のガルフ諸国に展開しているエジプト軍とシリア軍は、当該諸国の国土防衛のために派遣されたも

(二) 教育と経済分野  
a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 各国の私企業分野が経済、社会発展の共役割を支援し、それらのセンターにすべての便

d. 開発に向けた科学研究センターの作業と宣を計る。

e. 教育、技術協力の枠組の中で、技能的、人間的資源の交流を行う。

(三) 参加国は、アラブ連盟を支持すること、そして、アラブ連盟の憲章、原則、目的に完全に責任を果たすことによって、アラブ連盟を弱化させるとか、妨害するとかのすべての陰謀と闘う。

(宣言署名国は、エジプト、シリアとGCCの

## 第一原稿（全訳）

①アピール六七号補足  
サウジ、クウェート、UAE、カタール、オマーン、バハレーンの計八カ国。)

### ●蜂起統一指導部アピール

不退転のパレスチナ人民の皆さん、祝福されたインティファーダの英雄の皆さん。イラク軍と人民の伝説的な不退転性、そして抵抗に依拠して、イラク指導部は侵略と破壊を止めさせることをめざす平和イニシアチブを提案した。このイニシアチブは、全人民の利益と富に対する不法な意図を押しつけることによって全世界を米国の支配下に置く陰謀を阻止するイニシアチブと提案にそつて提出された。だが、米国率いる国際同盟は、このイニシアチブを拒否し、その拒否によって再度、彼らが戦争と侵略をめざしていること、そしてイラクの軍事力と文明の下部構造を破壊する決意を燃やしていることを確認した。だが、一方では、世界の平和愛好勢力は、このイニシアチブを歓迎した。

我々民族統一指導部は（以後、統一指導部と略）、イラクのイニシアチブが、同一の基準を適用して中東の種々の問題に対処していく、公正かつ正しい土台となる包括的で、均衡が取れたものであるとみなす。ガルフ戦争の最中に、

そして、米・NATO・シオニストアラブ運動の同盟が、バグダッドにおけるシェルターの一つ（アル・アミリヤ・シェルター）に避難していたイラク民間人に対する唾棄すべき意図的な殺害を、文明と自由の擁護者を自称しつつ、やつてのけることに示された犯罪行為の継続の中で、そして、地域の再編、さらには地域の分割が取り沙汰されている時、米政府は、その手先であるアラブ反動諸国と組んで、パレスチナ人総体、とりわけ、PLOに対する犯罪的攻撃を強化している。手始めは、米、欧州在留のパレスチナ人に対する人種差別キャンペーンであり、クウェートとイラクに在住するパレスチナ人が何十人もNATOの空爆で虐殺されたのに加え、エジプト、シリア、ガルフ諸国ではパレスチナ人の追放、残酷な措置が続いた。

さらに、この攻撃は、剛勇なインティファーダの全面解体をもくろむシオニスト国家の政策に、格好のカバーとなっている。その政策は、まず被占領地の産業、農業、貿易に対する経済破壊を狙った外出禁止令から始まり、この攻撃で、パレスチナ人は最も単純な権利と自由を奪われた。そして、この攻撃は、教育課程や生活における他の側面をも停止させている。これに加えて、パレスチナ人労働者は労働する権利を奪われ、生活の糧を得る道を断たれた。この期間、占領当局は、パレスチナ人に對して、課税キャンペーン、大規模な集団逮捕、家屋閉鎖、さらに多数のグリーン・カードの発行などの犯

は、そのような措置によって、インティファーダを締め上げ、人道的、かつ日常的なサービス機関の体裁をもつた御用地方公共団体の疑わしい役割を人民が受け入れていくことを期待している。また、占領当局は、パレスチナ人民が占領者の命令のままに、占領軍の槍につつかれて動き労働する木偶の坊の集団になることを展望している。だが、占領当局は満足できないので、シリア軍の鼻の先で、南部レバノンのパレスチナ人キャンプを爆撃・砲撃したり、被占領地の人民をイラクのミサイル攻撃のヒューマン・シールドに使つたりしている。

侵略的、人種主義的攻撃を新たにエスカレートさせ、敵シオニストは、抵抗、反乱、不服従の精神を消滅させ、外出禁止令が完全に崩壊するのを回避するべく、また、経済困難、特に農業と建設分野における困難に直面するシオニスト経済のオーバーホールをめざして、最近は、パレスチナ人労働者のごく少数を屈辱的な条件下でシオニスト国家につれこんで労働させている。これは、大衆が封鎖下で飢え苦しんでいるのに、パレスチナ人の共同連帯と協力の精神を破壊し、一部に個人主義を植え付け、個人的な経済を作らせるためである。そこで、この人種主義的、屈辱的な労働政策に對決し、人間的な条件下で労働する権利を獲得することが要求されている。ラファートとヌサイラのパレスチナ人労働者が、仲間のパレスチナ人労働者との分断形態である屈辱的条件下での労働を拒否していることを、評価する。被占領地の内外で、

して向けられるように、また、すべてのアラブーイスラエル紛争とパレスチナ問題の公正な解決を実現することに向かっていく。

(五) 天然資源と経済資源に対する各国の主権を尊重しあう。

のと、参加メンバーはみなす。ガルフ地域におけるアラブ諸国の安全と安全保障を確保するため設立されるところになるアラブ平和維持軍の中核を、現在配備されている両国の軍隊が代表する。この平和維持軍は、将来的には、包括的なアラブの安全と防衛秩序の確立を成功裡に実現する保証の典型となるだろう。

### B. 協力と共同の目的

#### (一) 政治・安全保障の分野で

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専門機関の援助を受けて、中東を大量破壊兵器、特に核兵器のない地域にすることを追求する。

d. 参加メンバーは、アラブ連盟憲章であると、参加メンバーはみなす。

e. 教育と経済分野

a. 第一步として、創立メンバー間での経済協力を推進し、将来的には、他のアラブ諸国を含めたものを展望する。

b. 経済、社会発展の速度を早め、アラブ経済共同体創立の道を拓くために、新たな経済政策を立案する。

c. 参加メンバーは、国際的専

C. イラクの民間人虐殺に現れた最近の米侵略に対し、国際社会がわずかな反応しか示さなかつたが、これは、再度、国際社会が二重の基準をあてはめていることを示す。また、この政策は、国連の合法的諸決議にのみあてはめられるのではなく、人間の生命そのものにもあてはめられることを示した。アラブの人間は何らの価値もなく扱われるのに、一方では、イスラエルは全世界の目の前で抑圧の長い歴史を作つてきたのに、このイスラエルに対する世界的連帯キャンペーングが起こっている。我々にとつては、この三年間、いやそれ以上に長期のイスラエルの抑圧が思い起こされるのだが。過去三年間、デ・クレアール氏は、国連総長の座にあつたが、何ひとつしなかつたことは、明記するべきである。そこで、イスラエルの国連決議違反、さらにはガルフ危機に関連した決議違反に対しても、一体何のために在任したのかを再考するよう提起する。関連して、被占領地のパレスチナ人民に国際的保護を与える措置、国際的合法性の分割の不承認、また、中東情勢の全様相を検討す

一パレスチナ人民の不退転性と、自由、独立に  
向けた闘争万歳。  
一イラクの不退転の人民万歳。  
一抵抗するアラブ大衆万歳。  
一九九一年一月中旬  
パレスチナ国  
民族統一指導部

②アピール六八号

イラクの栄光と勇士の呼びかけ  
インティファーダの勇敢な皆さん。イラクに対する米指揮下の侵略の現実は、イラクの賢明な指導部が侵略者どもの本音を隠してきたすべての口実を剥ぎ取つたので、白日の下に曝さわた。侵略者の眞の狙いは、イラクの軍事力と経済を破壊し、イラクの発展を規制することであつたために、屈辱的な条件をつけることになつた。語り継がれるであろうイラクの不退転性が、侵略の食欲な野望を暴き、侵略者どもの目的を畢

②アピール六八号

- 一 パレスチナ人民の不退転性と、自由、独立に向けた闘争万歳。
- 一 イラクの不退転の人民万歳。
- 一 抵抗するアラブ大衆万歳。

の立場を称賛して、戦争の武器として石油を使うように、アルジエリアに呼びかける。これらのイラク支持諸国に呼びかける。大衆がイラクと共に戦う義勇兵に志願しているを許可し、イラク人民への食糧・医薬品禁輸を解除してほしい。また、リビアとイランに呼びかける。イラク支持にむけ、アラブとイスラム人民の公正な大義にむけて、もっと大胆な態度をとつてほ

る国際会議開催にかゝるハレスチナ人の帰還、民族自決権、また、パレスチナ人の唯一正統な代表PLOの指導下に独立国を建設するという民族的諸権利の実現にむけた措置の実施にとりかかるよう呼びかける。また、ベーカーレビ、仏首相の発言に反映されているようなPLOの役割を解消しようとする横暴な試みを弾劾することを強調しておきたい。

その他の種類の開発に結集し、家庭経済を發展

に帰国しようとしている世さんの態度を評価す

一、イスラエルの新たな抑圧措置の結果生じた新たな情勢に対応して行動することを、人民大衆の皆さんと攻撃部隊に要請する。それは、以下の内容となる。

A・地方で敵に対決する戦闘活動を強化する。  
外出禁止令をはねのけた諸村の大衆の皆さんを  
称賛する。そして、攻撃部隊に対しては、村や  
キャンプなど、パレスチナ国で現在の前衛の位  
置を占める場所に留まるよう呼びかける。外出  
禁止令が解除された時間帯に、戦闘活動を強化  
すること、ただし、それは大衆の皆さんのが食糧  
供給ができるように、都市や町やキャンプの中  
心部ではない場所で行われるよう希望する。ま  
た、路地や小道での戦闘行動を強化し、可能な  
かぎり多数の大衆がそれに参加すること、外出  
禁止令がかけられようが、解除されようがレジ  
スタンス行動を発展させること。

3、大衆の皆さんに平和をもたらすために、協同組合の、

D. もし外出禁止令が早朝から解除された場合は、商店は午後の一時まで営業しなくてはならない。そうでない時は、三時間だけ営業すること。これは、ガザでは適用されない。我々は、ガザの条件にあわせていくことが必要である。E. ガルフに艦隊や部隊を派遣している諸国は領事館に招待された時、招待を受けた人々に拒否を呼びかける。また、エジプト大使館が疑わしい役割を果たしているので、ボイコットを呼びかける。移民を希望して領事館へ行くのを止めるよう呼ぶ。同時に、日本、イスラエル、

ハレチナ人に対する侵略的な敵対政策は直面しているが、我々は、この陰謀を打ち碎くために、以下のことが要求されているとみなす。

一、インティファーダは、継続、拡大させ、新情勢に対応する新たな技術を発展させることによって、インティファーダ、イラク、南部レバノンの各戦線が相互補完しあうようになること。イラクと南部レバノンの戦線は、インティファーダを代行するものではなく、インティファーダを支援し、支えるべきであることを特に明記す

C. シオニストのマスコミは、必死で、ガルフ戦争における帝国主義同盟の損害の実際の数を隠蔽し、シオニストの犯罪を隠蔽し、人民の士気を低下させるために、でっちあげた地方公共団体評議会なるものを介して人民に恐れと不安を持ち込むデマ・キャンペーンを張っている。したがって、大衆の皆さんに呼びかける。シオニズムはやめさせよう。また、金持の人々は貧しい人々をもつと連帯を示し、共同連帯基金の姿を一般的なものにしよう。

また、アラブ大衆とパレスチナ、ヨルダン、イエメン、スーウィー、そして北アフリカの民族的アラブ国家は、イラクに団結した。この不退転性が、アラブとモスレムの富を掠奪し、新世界秩序なるものをアラブ・モスレム世界、そして全世界に押し付けようとする新たな欧米諸国の侵略に抵抗するアラブ・モスレムの団結の基盤となつたのである。この団結は、さらに、あるアラブ政権が米と親密になり、イラクへの侵略に参加したことには左右されない、汎アラブの民族レジスタンスの道を拓いた。なぜなら、シリヤ、エジプト、そしてアラビア半島の人民は、自らの卑小な利益のために、かつ米帝の利益のために、自分たちの意志を偽造し、力を浪費した指導者を決して許さはしないだろうから。いずれ、これらの支配者は、自らの人民の手で厳しく罰せられることだろう。

史上最大の連合軍を向こうに回して戦ったことで語り継がれるであろうイラクの不退転性を誇りにする権利が、すべてのアラブ人民、とりわけ、パレスチナ人民にある。帝国主義と帝国

露し、侵略を征服できた。これは劣光は歴くアラブ民族の歴史と、すべての抵抗する人民の歴史に刻まれるであろう。

A. イラク軍と衝突したシリアの立場を弾劾する。侵略に反対し、イラクを支持するエジプトのアラブ人民の声を抑圧したエジプト政府の陰謀をも弾劾する。この侵略に参戦したアラブ軍の撤退を再度要求する。

る、国際的諸組織に対して、イスラエル当局は圧力をかけ、ヨルダンに集結しているパレスチナ人大衆の帰国を認めさせるよう努力してほしい。

F. でっちあげられた地方公共団体の諸委員会が我々の側に食い込むのを阻止するべく、民間防衛委員会の数を増やし、すべての場所に拡大していくよう要求する。

三、四八年ライン内の同胞に呼びかける。皆さんが受けているテロ政策、人種差別に反対の声を高めよう。また、インティファーダ支援のための委員会を結成し、特に被占領地の人民が全面封鎖下にある状況での闘いを支援してほしい。

四、我々が直面している困難な状況にもかかわらず、創立二周年を迎えるDFLP（パレスチナ解放民主戦線）の指導部に挨拶を送るのを忘れてはならない。DFLPが、インティファーダを勝利まで堅持するとの誓いを守って、この間傑出した役割を果たしてきたことを評価す

外のパレスチナ人は、自由と独立の権利を断固防衛すると同様、自らの代表としてのPLOにも断固結集する。

統一指導部はすべての戦士、大衆組織、労働組合、そして諸機関の皆さんに呼びかける。PLOがパレスチナ人民を代表する権利に対して、その権利を疑問視しようとするあらゆる陰謀を打ち砕こう。PLOと統一指導部を断固支持するパレスチナの統一した立場の切り崩しを強力に阻止するには、まず、統一を重視し、発展させ、完成させること。

皆さんに、以下の行動に結集するよう呼びかける。

一、イラクの不退転性の真の意義を説明し、絶望と不満をふりまく連中と闘うこと。パレスチナ人民を不満の淵に追いやうとして、絶望的な陰謀をもつて毒を撒いていた帝国主義とイスラエルのマスクミに對峙し、強いレジスタンス魂を發揮し、意識性を強めるよう、統一指導部は、大衆の皆さんに呼びかける。

二、三月八日の国際婦人の日あたり、婦人の皆さんは統一してデモをやろう。スローガンは、パレスチナの婦人には独立国家で生きる権利があること、イラクの栄光ある婦人と連帯が強調されること。

三、三月九日は、ゼネスト。パレスチナの旗を掲げ、スローガンは、PLO執行委員会とその議長であるアブ・アンマールに代表されるPLOの賢明な指導への支持、占領軍が撤収するまで、そして独立パレスチナ国が樹立されるまで、

一、だれのための戦争だったでしょうか？

●二・三〇声明  
統一指導部  
パレスチナ国

な代表たるPLOを度外視する陰謀のすべてを拒否する。

イラク、そして、パレスチナ人民とともに、米NATO軍に対峙する自らの眞の位置に復帰することなく、イラクは、奴隸のように同胞殺しに狩り立てられたアラブの諸軍隊に加えて、NATO軍が参加したこの連合軍の攻撃を受けた。それでも、イラクの意志は挫けたことがなかった。なぜなら、イラクが掲げた高い目的とスローガンは、すべてのアラブ、そしてモスルの胸に響き、すべての戦闘的勢力を統一し、彼らが自らイニアシアチブをとっていく意識を再生させた。こうして、我々は、すべての大義の母、パレスチナ人の大義が、世界レベルで最前線に浮上するのを注目したのである。我々の民族的諸権利を満たすことを土台とする、その第一は被占領地内外の唯一正統な代表であるPLOの指導下にパレスチナ独立国を祖国に建設することであるが、パレスチナ問題の解決がない限り、いかなる中東の安全も安定も成立しないからである。

民族統一指導部（以後、統一指導部と略）と、被占領地内の人民は、イラクが断固として、かつ柔軟に、独自の意志、力と富を有する権利、そして、アラブの富と大義を防衛する権利を防衛したことについさつを送る。同時に、米-NATO-Arabの手先のやった侵略を弾劾し、侵略者どもが即刻アラブ地域、第一にはイラク領土から撤退するよう要求する。

パレスチナ人民は、シリア軍とエジプト軍、ガルフ諸政府がこの侵略軍に参加したのには、嫌悪の念を覚える。そして、この両国の軍隊が打ち砕こう。PLOと統一指導部を断固支持するパレスチナの統一した立場の切り崩しを強力に阻止するには、まず、統一を重視し、発展させ、完成させること。

インティファーダを堅持し発展させる意志を反映されること。

四、三月一七日はゼネスト。パレスチナとイラクの旗を掲げよう。米とその同盟者、手先どもによるイラク侵略を弾劾し、アラブの土地から上級者の撤退を要求するスローガンを掲げよう。

一九九一年三月一日

日本の同志、友人のみなさん！

遠いアラブの地から断固たる闘いの意志と熱い国際連帯の挨拶をおくります。

ガルフ戦争における米帝などの帝国主義勢力の圧倒的な軍事的勝利は、パレスチナのたたかいで、これまでになく困難な状況を生み出しています。だが、ガルフ戦争は、他方においてアラブ世界での人民の反米反帝闘争を強め、なによりも旧体制、現支配政権に対する人民決起の条件を形成するものになっています。帝国主義の直接の支配が強まるほど、人民の反米反帝体制のたたかいは、高まらざるをえないのです。つまり、帝国主義の勝利は、その敗北の条件をつくっているのです。

一、だれのための戦争だったでしょうか？

二、八二年のイスラエルによるレバノン侵略、ベイルート包囲戦争がそうであったように、ガルフ戦争もまた最新兵器の実験の場であった。ステルス戦闘機、巡航ミサイル、マホーク、地対空ミサイルパトリオット、ジャミングシステム、スマート爆弾など最新の軍事技術が駆使され、大量殺戮が行われた。そして、大量に消費された兵器は更新され、軍需産業は活況となる。米帝は、このためにこそ戦争を行つたのです。

戦争の直接的な契機は、もちろん強権的に自國の物質基盤確保を狙つたイラクによるクウェート侵略・併合ですが、こうした戦争の展開を望んだのは、米帝ら帝国主義勢力であり、その責任は、戦争と破壊を追求した帝国主義諸国の軍需産業であり、ベクテルらの巨大建設資本であり、エクソンらの石油資本です。実際、イラクにクウェート侵略のゴーサインを出したのは、米帝自身であることが暴露され始めています。

これが実現するまで、我々は、イスラエル当局の勝手な措置にもかかわらず断固戦う被占領地の人民に対して、国連安理会が国際的保護を与えるよう要求する。

一、統一指導部は、世界中のパレスチナ支持の皆さんに、パレスチナ経済を発展させ生産能力を高めようとしているので、これへの支援を呼びかける。また、ECに呼びかける。PLOと民族諸ルートを通して、パレスチナ人民を援助してほしい。我々は、パレスチナ人民の唯一正統を建設する権利である。

これが実現するまで、我々は、イスラエル当局の勝手な措置にもかかわらず断固戦う被占領地の人民に対して、国連安理会が国際的保護を与えるよう要求する。

被占領地のパレスチナ人民大衆は、我々の闘争の指導者であり、我々の民族的大義に関する実際の姿を代表するPLOが果たした、勇気ある賢明な役割を高く評価し、これを誇りにしていることを再確認する。PLOは、イラクに対する侵略の停止と、外国軍の介入を避けてアラブ連盟の枠内でガルフ危機を解決すること、そして、大義中の大義であるパレスチナ問題を含む中東の諸問題の解決を呼びかけたのであった。だが、PLOがパレスチナ人民の立場を代表した結果、自らの意志を本当に表現した結果、PLOは、不正なキャンペーンの的にされているが、我々は、これまでなかつたほど強く、断固として我々の唯一合法の代表としてPLOを押し立て、自身の唯一合法の代表としてPLOを押し立て、自らの意志を本当に表現した結果、PLOは、不正なキャンペーントリオットと疑惑を呈している。さらに、パレスチナ人を代表し、また、交渉に応じる権利がPLOにあるだろうかなどと疑惑を呈しているすべての勢力に警告する。彼らは、必死でPLOの漫画的な代行物を探しているが、被占領地内に

した役割は大きい。日帝の経済的な支援なしに、米帝はこういう大規模な戦争を遂行することはできなかつたでしょう。日帝は経済的支援のみならず、日本国内に基地をもつ米帝軍の展開を自衛隊をも動員して、支援し、併せて「人命救助」の美名のもとで、自衛隊機の派遣をもくろみました。こうした日帝のあり方に対しても、アラブ世界の人民は、今、日本が自分たちに敵対しているとみなしていることを忘れてはなりません。

日本政府は、これまでのイラクなどの関係からいって、本来的には、この紛争において、平和的、外交的な解決への役割を果たしうる立場にあり、日本政府がいうところの「国際的な貢献」をえたにもかかわらず、米帝の戦争政策への追随しか行いませんでした。これは、米帝への貢献であっても、「国際的な貢献」ではまったくなかつたのです。

二、米帝による新世界秩序Ⅱ一元的支配の確立は、その終焉の始まりです。

米帝ブッシュは、ガルフ戦争の勝利によって、「新世界秩序の最初のテストをパスした」と宣言しました。確かに、ソ連・東欧の体制的再編・転換によって、ソ連などの社会主義諸国の力は後退し、「国連」という名のもとで、米帝を軸とする帝国主義の世界にたいする一元的支配は貫徹しています。だが、これは、終わりの始まりであります。

今回のガルフ戦争は、米帝が単独では行いえ

していくことにあるのですから。

これらの困難な状況のなかで、被占領地の統一指導部は、六八号アピールで、西岸・ガザにおける新たな抵抗を開始するように呼びかけています。唯一正統な代表としてのPLOの下に闘いの継続を呼びかけているのです。イスラエル警察と軍当局は、ガルフ戦争前の状況への回帰を許さないと表明しています。

だが、インティファーダの闘いは続けられています。各国においてパレスチナ人が存在を許され、武装解除を強いられていくか、インティファーダが被占領地で続く限り、パレスチナ人の統一の主体的条件は作られていきます。

四、反帝国主義の旗を高く掲げて、あらゆるレベルでパレスチナ連帯を実践しよう

ガルフ戦争を契機に敵帝国主義は同盟を強化し、人民支配を強めようとしています。だが直接的支配・介入の強化は、それに対する人民の闘いを強めています。そして、アラブ諸国内で、これまでの独裁的支配体制や王政に対する人民の反乱を呼び起こしているのです。その現れ方は、民族的であつたり、宗教的であつたりし、反帝・反シオニストの闘いとしての各勢力の統一を実現してはいませんが、人民自身の決定権を強めていることは確かなことであり、宗敎的・民族的闘いをも含めて、全反帝・反シオニスト勢力を統一していくことが問われているのです。

国際主義とは、国際主義的実践をすることです。

## 重要日誌

一九九一年二月一一日～三月一〇日

・ブッシュ、空爆継続を発表。  
・セイントラム、戦争を聖戦と規定し、ヨル

日本赤軍

一月一五日（金）  
・ダラン、モロッコ人民に名指しで呼びかけ。  
二月一二日（火）  
・米、英、仏国防相との個別会議で、空爆継続方針確認。

二月一三日（水）  
・連合軍、バグダッド市内の民間シェルターを、軍事施設兼用として爆撃。市民数百人虐殺。  
・イスラエル、クウェート進攻直前に米が暗黙の了解をイラクに与えたと批判。ベーカー、アサド大統領との会談後、ドイツ外相談話これを否定。

二月一六日（土）  
・イラク革命評議会、付帯事項付きで国連決議六六〇受け入れを発表。  
・ブッシュ、イラク提案拒否し、イラク軍と人民にサッダム打倒を呼びかけ。  
・カイロのアラブ八ヵ国外相会議声明発表。安全保障と地域協力、外国軍の撤退、大量殺戮兵器の軍縮を打ち出す。

二月一八日（月）  
・米軍発表 過去二四時間で、イラク軍との地上衝突が七回。

ズ、同盟軍を構成して成り立ったことが米帝の勝利の鍵であり、かつそれは米帝の単独での支配力の弱体化を表現するものでした。政治軍事的には英仏、経済・技術的には日独、そして、アラブアラブ同盟軍を動員することによって、この戦争は成り立つたのです。ここには、新たな世界支配秩序の構図がありますが、相互依存度が高まっている分だけ、各国内の矛盾として矛盾は深まつていかざるをえないのです。そして、皮肉にも、イラク内でサッダム政権打倒の人民決起を結果としているように、ガルフ戦争は、アラブ諸国内の既成の支配体制に対する人民決起の条件を成熟させています。それが人民権力樹立にむかうか否かは、指導勢力の主体力量にかかっています。

インティファーダを断固続けているパレスチナ勢力もまたその一環としてあります。  
・インティファーダを支持したPLOに対して「テロ」組織の対象として、政治的孤立化を計った米帝・イスラエルの策略は成功しています。

ガルフ戦争で、最も利益を得たのは、イスラエルである。イラクの打ち込むスカッドミサイルの恐怖を宣伝し、イラクに対する報復の権利を留保することによって、米欧から巨額の援助を受けただけではありません。PLOに対する歐州の承認を一举にイスラエル支持に転換させたことは、イスラエルにとって最大の成果でした。

イラクの立場を支持したPLOに対して「テロ」組織の対象として、政治的孤立化を計ったPLOを軸とするパレスチナ人民の統一を解体することにあるのです。レバノン人に対する権利が剥奪されています。レバノンでは、武装存在としてあった各パレスチナ勢力が他の民兵勢力の解体と同時に、武装解除の方針に向かっています。すでに、南部からのロケット攻撃については、レバノン政府が許さないという立場を表明し、レバノン軍がロケット排除を行っています。

今、比較的パレスチナ人を受け入れる立場をとっているのはヨルダンですが、ヨルダンにおいて再び「黒い九月」のパレスチナ人弾圧が起らぬことは限りません。敵の意図は、パレスチナ人をヨルダンに封じ込めつつ、支配を貫徹

ガルフ戦争でもっとも打撃を受けたのは、その意味でイラク人民とともに、PLO、パレスチナなのです。イラクに対する爆撃が開始され以降、被占領地、ガザ、西岸にだされた外出禁止令によって、少なくとも一〇万人のパレスチナ労働者が職場に行けず、職を奪われ、同時に、外出禁止令違反として四五〇〇人のパレスチナ人が逮捕されたといいます。それでも敵のもろみは、今はっきりしています。それは、PLO抜きのパレスチナ人の参加する和平交渉の推進です。パレスチナ人民の唯一合法的代表としてのPLOの位置を剥奪すること、つまり、PLOを軸とするパレスチナ人民の統一を解体することにあるのです。それは、パレスチナ人に対する権利が剥奪されています。サウジではパレスチナ人狩りが始まっています。サウジではパレスチナ人の追放です。クウェートでは、パレスチナ人に対する権利が剥奪されています。レバノンでは、武裝存在としてあった各パレスチナ勢力が他の民兵勢力の解体と同時に、武装解除の方針に向かっています。すでに、南部からのロケット攻撃については、レバノン政府が許さないという立場を表明し、レバノン軍がロケット排除を行っています。

第二に、パレスチナ勢力の武装解除と各国から出禁止令によって、少なくとも一〇万人のパレスチナ労働者が職場に行けず、職を奪われ、スチナ人労働者が職場に行けず、職を奪われ、これが始まっています。サウジではパレスチナ人に対する権利が剥奪されています。レバノンでは、武裝存在としてあった各パレスチナ勢力が他の民兵勢力の解体と同時に、武装解除の方針に向かっています。すでに、南部からのロケット攻撃については、レバノン政府が許さないという立場を表明し、レバノン軍がロケット排除を行っています。

今、比較的パレスチナ人を受け入れる立場をとっているのはヨルダンですが、ヨルダンにおいて再び「黒い九月」のパレスチナ人弾圧が起らぬことは限りません。敵の意図は、パレスチナ人をヨルダンに封じ込めつつ、支配を貫徹

・アサド大統領との会談後、ドイツ外相談話「シリアは、イスラエルの存在を承認している」

二月一五日（金）  
・イラク革命評議会、付帯事項付きで国連決議六六〇受け入れを発表。  
・ブッシュ、イラク提案拒否し、イラク軍と人民にサッダム打倒を呼びかけ。  
・カイロのアラブ八ヵ国外相会議声明発表。安全保障と地域協力、外国軍の撤退、大量殺戮兵器の軍縮を打ち出す。

二月一六日（土）  
・米軍発表 過去二四時間で、イラク軍との地上衝突が七回。

二月一八日（月）  
・ゴルバチョフ・アジズ外相会談で停戦案討議。

- ・ハラウイ大統領発言「南部へのレバノン軍配備を二週間前に行つたので、イスラエルの撤退を要求する」
- ・イスラエルの南部レバノン連絡将校発言「ゲリラが存在するかぎり、撤退できない」
- ・連合軍、クウェートのイラク軍塹壕線の一部を攻撃し、多数の捕虜捕獲。
- 二月二〇日（水）
- ・ゴルバチョフー・アジズ会談後、八項目停戦案発表。
- ・ブッシュ、二三日の現地時間夜の八時までにクウェートから撤退せよと最後通牒。
- ・ソ連、イラク、先の八項目を修正した八項目停戦案を発表。
- 二月二四日（日）
- ・連合軍、期限切れ八時間後から、地上戦総攻撃開始。
- 二月二十五日（月）
- ・イラク軍、サウジのダーランの米海兵隊ビルをスカッド攻撃。米軍、二〇名の海兵隊被害発表。
- ・イラク、クウェートからの撤退を指令。
- 二月二八日（木）
- ・イラク、一二の国連決議のすべてを受諾。
- ・ブッシュ、連合軍に現在位置での停止を命令し、勝利宣言。停戦成立。
- ・クウェート政府、二ヵ月間の戒厳令施行発表。
- 三月一日（金）
- ・統一指導部、被占領地でアピール六八号発表。

三月三日（日）

・国連安理会、米提案の停戦決議を正式承認。

イラク側もこれを承認。

・ミッテラン、「パレスチナ人に家と郷土」を保障するための早急な国際会議開催を呼びかけ。

二月二〇日（水）

・イラク国内で反政府運動激化。

三月四日（月）

・イラク、ベーカーとの会談後、クウェート元首が「民

主化」政策、国連決議承認を条件とするイスラエルとの関係樹立を考慮すると発言。

三月六日（水）

・ブッシュ、中東再編の四つの課題発表。

・GCC（六カ国）－エジプト、シリア外相によるダマスカス宣言発表。

三月九日（金）蜂起四〇カ月目に入る

明発表。ベーカー、パレスチナ問題での相違を認める。

・イスラエル政府発表「ゴラン高原返還には応じない」

### ●編集後記

- ・ガルフ戦争と米帝軍を中心とする連合軍の勝利は、世界の流れに重大影響を与えるものになります。米帝の戦略は、単に中東に米帝の支配秩序を打ち立てることにとどまるものではなく、世界に対して、米帝の軍事力を核とする新たな秩序を宣言するものになっています。これは、民族の自決をもとめる第三世界に対してのみではなく、日本、ドイツなどに対する宣言であります。
- ・これを理解している独立資本とその政治的代理人である自民党政府は、米帝の顔色を伺いながら、進んで米帝の手先の役割をしています。日本独立資本の代理人は、わざわざ米国内の新聞に日本のガルフ戦争対応を謝罪する広告まで出して、米帝の機嫌をそこなわないようにしている。ガルフ戦争は、イラクに対してだけの戦争ではなく、日本、ドイツへの戦争でもあった。米帝の意向にそわないものは、帝国主義といえども、一掃する姿勢をしめしたのである。そこにあるものは正義でもなく、一世紀前の砲艦外交です。
- ・イラク人民の反乱は、帝国主義が中東に課そうとする「秩序」を食い破るのみならず、他のアラブ諸国へも拡がっていくでしょう。帝国主義支配からの自由と自決を要求する人民の意志は、結局、政府や既成の指導部に期待しても実現されないことが示されたからです。人民は、人民自身が帝国主義と闘わなければならないという意識を強めざるをえません。人民の決起の条件が熟しています。